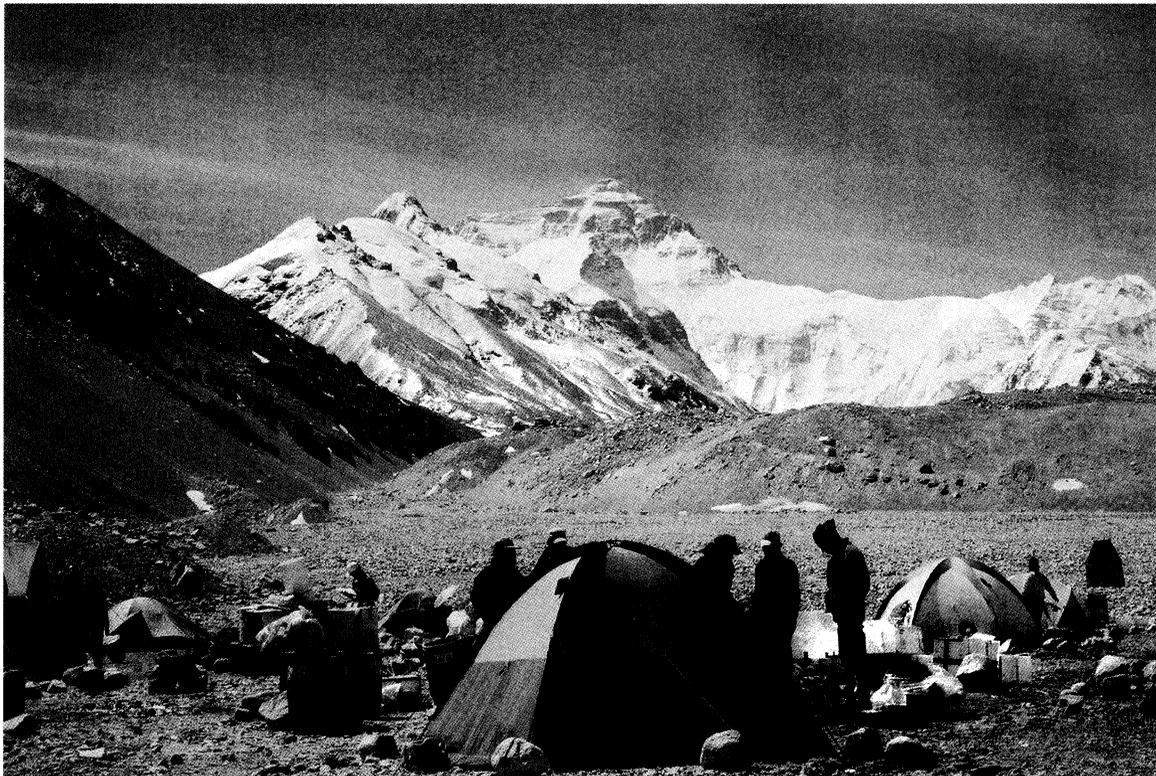


近くて遠いチヨモランマ峰

桐生山岳会チヨモランマ登山隊2002

隊長 樋口 宗平



二〇〇二年春、桐生山岳会チヨモランマ登山隊は多くの方々のご声援、ご協力をいただき、世界一高い山、チヨモランマ峰（八八四八m）を目指しました。

当初予定より二日遅れの四月七日にカトマンズを出発し、十四日にベースキャンプ（BC）予定地（五一五〇m）に到着しました。BC、アドバンスベースキャンプ（ABC、六三〇〇m）でも順応トレーニングを重ねた後、第一次アタック隊として宮崎副隊長と吉田隊員、シエルバ二人が五月十四日ABCを出発し、十七日に宮崎とシエルバ一人が登頂に成功しました。吉田は八七〇〇mで登頂を断念しました。第二次隊として今井ドクター、大山隊員（無酸素登頂予定）が十五日にABCを出発しましたが、十七日、大山はC5（七八〇〇m）まででアタックを断念しました。今井はC6（八二〇〇m）に入ったものの、石川氏の生死の問題に巻き込まれて十八日の出発が遅れ、頂に届きませんでした。第三次隊で唯一C5に入った武田隊員も、テントがつぶされるほどの強風に阻まれ、二十日に頂をあきらめ強風の中、ABCまで下山しました。これで事実上、登山活動は終了しました。二十六日にはBCを引き払い、二十七日

にカトマンズ着、六月一日までには全員が日本に帰ってききました。

この登山を振り返ってみれば、一人の登頂者しか出せませんでした。隊として成功とも失敗ともいえませんが、多くの方々のご協力、ご期待に応え得なかったということ、私たちは承知しております。

後援していただきました桐生市教育委員会、桐生市体育協会、群馬県山岳連盟、桐生タイムス社の各位には、大変お世話になりました。特に桐生タイムス社には物心両面に渡りご支援いただきました。また同社記者が一月の間、隊と同行し、その臨場感あふれる写真入り記事をすばやく岳友、市民の皆様に向けてくれました。

最後に、桐生山岳会がこれだけの大事業を無事終えることができましたことを、心よりお礼申し上げます。

二〇〇二年春、桐生山岳会チヨモランマ登山隊は多くの方々のご声援、ご協力をいただき、世界一高い山、チヨモランマ峰（八八四八m）を目指しました。



《行動の記録》

- 3月24日 先発隊成田空港出発
- 25日 バンコク→カトマンズ
- 26～31日 隊荷整理、物品購入
- 4月1日 本隊成田空港出発
- 2日 全員カトマンズ集合
- 3日 隊荷・個装整理
- 4日 メンバー・シェルパ顔合わせ
- 5日 安全祈願のためゴンパに参拝
- 6日 サーター宅訪問、隊荷積み込み
- 7日 カトマンズ→ザンムー
- 8日 ザンムー→ニエラム着
- 9～10日 高所順応トレーニング
- 11日 ニエラム→ティンリ着

- 12～13日 順応トレーニング
- 14日 ティンリ→BC着
- 15日 隊荷区分け
- 16～17日 順応トレーニング
- 18日 休養日
- 19日 プジャ(安全祈願祭)
- 20日 順応トレーニング
- 21日 隊荷第一次荷上げ
- 22日 順応トレーニング
- 23日 休養日
- 24日 全員C1(五八〇〇m)へ
- 25日 本隊ABC(六三〇〇m)へ
- 26日 ABCプジャ
- 27日 C1残留隊員ABCへ
- 28日 C4建設へ荷上げ
- 29日 風雪のため停滞、養崎記者下山
- 30日 全員ABC→C1
- 5月1日 全員C1→BC
- 2日 休養日、樋口、清水ザンムーへ
- 3～4日 休養日
- 5日 宮崎、吉田C1へ
- 6日 シェルパ4人C4泊
- 7日 樋口ザンムーからBC入り
- 8日 松本、武田C1へ
- 9日 BC残留隊員自主トレーニング
- 10日 樋口、今井C1へ

- 11日 BC残留隊自主トレーニング
- 12日 久保田C1へ
- 13日 大山BC→ABCへ
- 14日 第一次アタック隊(宮崎、吉田)シェルパ2人とABC→C4へ
- 15日 折原BC→C1へ
- 16日 第一次隊C6へ
- 17日 第二次隊C5へ
- 18日 第二次隊今井はC6へ
- 19日 第三次隊武田C5へ、
- 20日 第二次隊今井は断念、宮崎は断念
- 21日 第二次隊今井アタック隊(樋口、松本、武田)C4へ
- 22日 第二次隊今井断念
- 23日 第三次隊樋口も断念
- 24日 第三次隊武田C5へ、



- 25日 隊荷整理、打ち上げ
- 26日 BC→ザンムーへ
- 27日 ザンムー→カトマンズ
- 28日 さよならパーティー
- 29日 先発隊帰国へ
- 30日 成田空港着解散
- 31日 後発隊帰国へ
- 6月1日 成田空港着解散

《隊構成》

- 隊長 樋口宗平
- 副隊長 宮崎 勉
- 隊員 貝瀬寿雄、松本繁則、久保田一美、武田芳政、吉田文江、大山洋次、今井通子、折原幸子、清水明子、養崎昭子
- 写真右より
宮崎 勉(登頂)
ナワン・ヨンデン(サーター)
樋口宗平(隊長)
ミンマ・ツェリン(登頂)
ABC(六三〇〇m)にて





長田まり子さんを想う

—彼女からの課題—

沼田山岳会理事長 見 城 正 造

平成十三年十二月三十一日、十三時十分に、「彼女が、雪崩に流され、不明。」という連絡が携帯電話に、同行の二人よりあった。

第一報を受けた者として、耳を疑い、驚き、信じられなかった。五人のパーティーで行動していた内の、先行の二名に連絡をし、確認を頼むが、視界は悪く、積雪は腰ぐらいのラッセル。十二月三十一日。決して忘れられない日になった。

長田まり子さんは沼田山岳会に平成四年に入会し、会の行事に積極的に参加し、個人山行も会の中

では一番多かったと思います。岳連の講習にも参加し、多くの山の仲間と知り合い、県民登山、山田昇杯登山競争大会、第三十九回全日本登山体育大会などでは、役員として活躍されました。山の好きな人で、よく勉強していました。

多才な人で、コーラスや読み聞かせのボランティアや月夜野町の行事にも熱心に参加し、水泳やその他のトレーニングもしていました。

なぜ彼女が雪崩に流されたのか。彼女から課題を受け取った想いで

平成十四年一月一日

初期捜索が一日より、県防災への協力を得て、二名の救助に向かう。無事に二名を収容してヘリポートまで着き、病院に向かった。捜索隊はヘリにて肩ノ小屋の上がり、西黒沢方面とヒツゴ沢方面を探索するが、手がかりはなく、明日の天気が悪くなる予報だったために下山した。

遭難対策本部で救助された二名より現場の状況を聞き、明日に備えた。

一月二日

本日も天気は良く、ヘリコプタ

ーで肩ノ小屋まで上り、昨日確認した、荷物をデポした岩まで行き、沢に入り、三ヶ所をゾンデするが、まり子さんの発見はできなかった。雪が降り、視界が悪くなった。肩ノ小屋に六名が泊まる。

一月三日

捜索隊は肩ノ小屋より、胸までのラッセルとなった。サポート隊は熊穴沢遭難小屋までのトレースを付け、合流し下山。

今後の捜索について協議し、次回は一月十二日〜十三日を第一回目として、肩ノ小屋へ荷上げを行なう。第二回は二月十日と十一日。荷物をデポした岩まで行き現場付近を探索するが、視界が悪い。

第九回 四月七日

積雪の減少の測定を始める。

第十六回 五月五日

沢の斜面を三・五メートルほど掘り、積雪面を調査し、事故当時の雪の層を推測する。天神平スキー場の気象記録を入手してデータを整理した。

第三十回 五月三十日

ピッケルが発見される。今まで探索していた場所より、下部から出てきた。

六月一日(第三十一回)より、毎日捜索に入る。

六月十一日

残雪を融かすために、トヨを設置する。ヒツゴ沢本流と合流した場所より五十メートル程下部で、オーバー手袋の片方が発見された。

六月十三日

ヒツゴ沢合流より上の雪田で、スコップが発見された。

第四十九回 六月十九日(水) 晴れ

ヒツゴ沢本流、標高一三七〇メートル付近で、十二時四十分に見の連絡が入った。

まり子さんを発見できたことで、現実を認めなければならない日が、来た。今日しかないという好天だった。十七時十四分、県警へりによって収容された。

彼女からの課題に対しての答は、捜索に参加した人達、それぞれの心にあると思います。

彼女を忘れないこと。彼女の話を話し、伝えること。

今回の捜索に関しては、群馬岳連に加盟の各山岳会や山の仲間の方々には、多くのお見舞いや差し入れを頂き、ありがとうございました。

長田まり子さんは山梨県の保福寺にいます。

県民登山へのお誘い

高体連登山専門部委員長

小林 達也

十月二十七日(日)、第二十五回群馬県民登山大会が子持山・小野子山を会場に開催され、今年は高体連登山専門部(高校の山岳部)が主幹として運営に当たります。群馬県内では高校四十八校に山岳部があり、登録部員数も四五〇名弱、その指導に当たる顧問の教師を含めると、総計六〇〇名近い組織となっております。

山岳部の高校生にとつて、一年の活動の中で大きな目標の一つとなっている大会、それが毎年五月の県高校総体で、子持山・小野子山、榛名山、赤城山の三山域を三年間で一巡するように開催されています。今年の県民登山大会に用意したコースは、高校総体で実際に使っているコースです。

◆Aコース(子持山・健脚向き・約七時間)

北毛青年の家〓ゲート〓見本林の広場……浅間山……大弛……大黒岩分岐……子持山頂……林道……天文台車道〓北毛青年の家

Aコースは、その一部は高校総体のために整備したコースで、市

販の登山地図や国土地理院の地形図にも掲載されていないルート、つまり、見本林の広場から浅間山(せんげんやま)までの間、静かな落葉広葉樹林の中を登ります。浅間山頂で子持神社からの登山道に合流し、そこから大弛までの間は、緩やかに上り下りする、広々と、ゆつたりとした山道で、右手に獅子岩(大黒岩)やそれを中心に広がる放射状岩脈などを確かめながら、きつと心地よい山歩きができることでしょう。大弛から大黒岩分岐までは、急な斜面の苦しい登りとなりますが、稜線に立つと、関東平野を眺めながらの登り一汗で山頂となります。山頂からは沼田台地や利根川、日光白根山、皇海山、武尊山、上越国境の山並みを一望することができますでしょう。

◆Bコース(子持山・約五時間)

北毛青年の家〓天文台P……林道……一〇二九m……子持山……電波塔……一〇二九m……林道……天文台P〓北毛青年の家

このコースも高体連ならではの山道を部分、部分に使います。天

文台の駐車場から一〇二九mの小丘までは、やはりガイドブック等にはないでしょう。一〇二九mで小峠からの道を合わせ、頂上を往復します。

◆Cコース(中ノ岳・健脚向き・約七時間)

北毛青年の家……赤芝の姉ツツジ……妹ツツジ……小野子山……小野子・中ノ岳鞍部……中ノ岳……中ノ岳・十二ヶ岳鞍部……林道……子持牧場……北毛青年の家

小野子山・中ノ岳の北面を回るルートです。短いながらも急な上り下りがあります。このコースでは、何と言っても、中ノ岳からの眺望の素晴らしさでしょう。薄つすらと雪を被り、裾野に紅葉の広がる、そんな上越国境の山々が迎えてくれるかもしれません。

◆Dコース(小野子山・約五時間)

北毛青年の家……赤芝の姉ツツジ……妹ツツジ……小野子山……小野子・中ノ岳鞍部……子持牧場……北毛青年の家

小春日和の中、時間を気にすることなく、のんびりと山の中に浸りたい向きの方、お奨めです。ただし、温かい飲み物と、おしゃれな携行食と、しっかりとした防寒着が必需品です。

第五十五回富士登山競走大会

鍋木 毅選手、山頂コース優勝

富士吉田市役所から富士山頂までの二十一キロを一気に駆け登る山岳レース「第五十五回富士登山競走」(山梨県・富士吉田市主催)が、七月二十六日開催され、鍋木毅選手(群馬県庁)が山頂コースで優勝の栄冠を勝ち取った。スタート時の気温は二十三度(河口湖測候所調べ)、山頂コースに参加した男女二二二四人の内、完走者は八六九人(三九・〇七%)という過酷なレースを制覇した。

鍋木毅選手談。「とにかく暑い一日でした。完走率も過去最低というところで、とても厳しいレースでした。勝負は後半、五合目以降と

思い、五合目まではとにかく抑えていきました。五合目は九位でしたが、さすがにこの暑さで先行する選手はかなりばてっており、六合目でシドニーオリンピックマラソン代表の川島伸次選手を抜き、七合目手前では二位に浮上、八合目で先頭をゆく三連勝を目指す小林修選手にならび、本八合目手前先行、そのままゴール。去年二位というところで辛酸を嘗めたため今回は三回の現地トレーニングの他、イメージトレーニング(富士山のコースの研究等)に多くの時間を割いたのがよかったようです。」



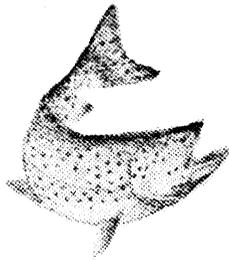
富士登山競走大会 六合目付近

味の店 ドライバーレストラン

一本松さかい

利根郡白沢村（国道120号線） TEL.0278-53-2053

片品川国際マス釣場



星 野 水 産

〒378-0013 沼田市新町230-1

TEL 0278-24-1398

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231 TEL・FAX 0278-23-6802

Annapurna

墓 石 ・ 灯 籠 専 門 店



高 橋 石 杖

高崎市石原町1497 TEL (027) 323-8867
工場・高崎市八幡町1245-67 TEL (027) 343-0270

群馬むすびの会会員

電話、弱電工事

プモリ電設

〒379-2223

佐波郡東村東小保方252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町1819-1

TEL 0270-21-8025

FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)

伊勢崎市中心街18-8

TEL 0270-25-0272

T. H. I. CORPORATION

登山隊遠征

- ガモフバッグ、パルスオキシメーターのレンタル、販売
- 隊荷輸送
- 隊荷梱包用資材

個人手配からフルパッケージ・ツアーまで海外旅行に関するすべてをお手伝いします

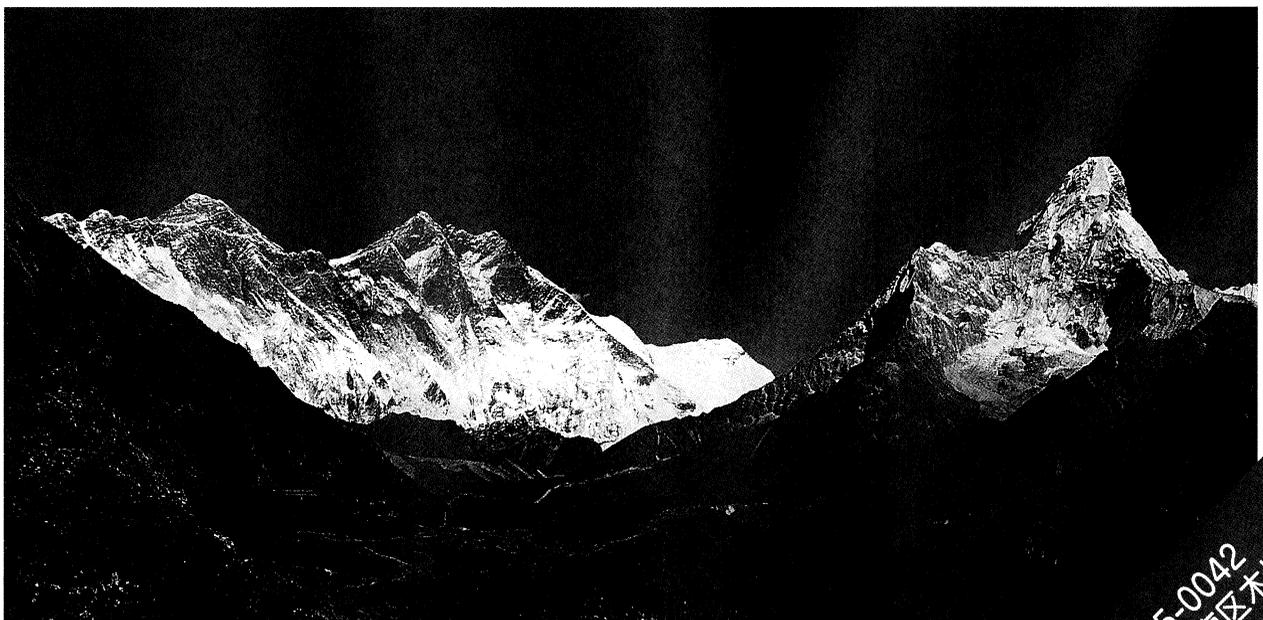
ディスカウント航空券

- 世界各地への航空券
- ホテル、交通機関の手配
- ビザ取得代行

トレッキング

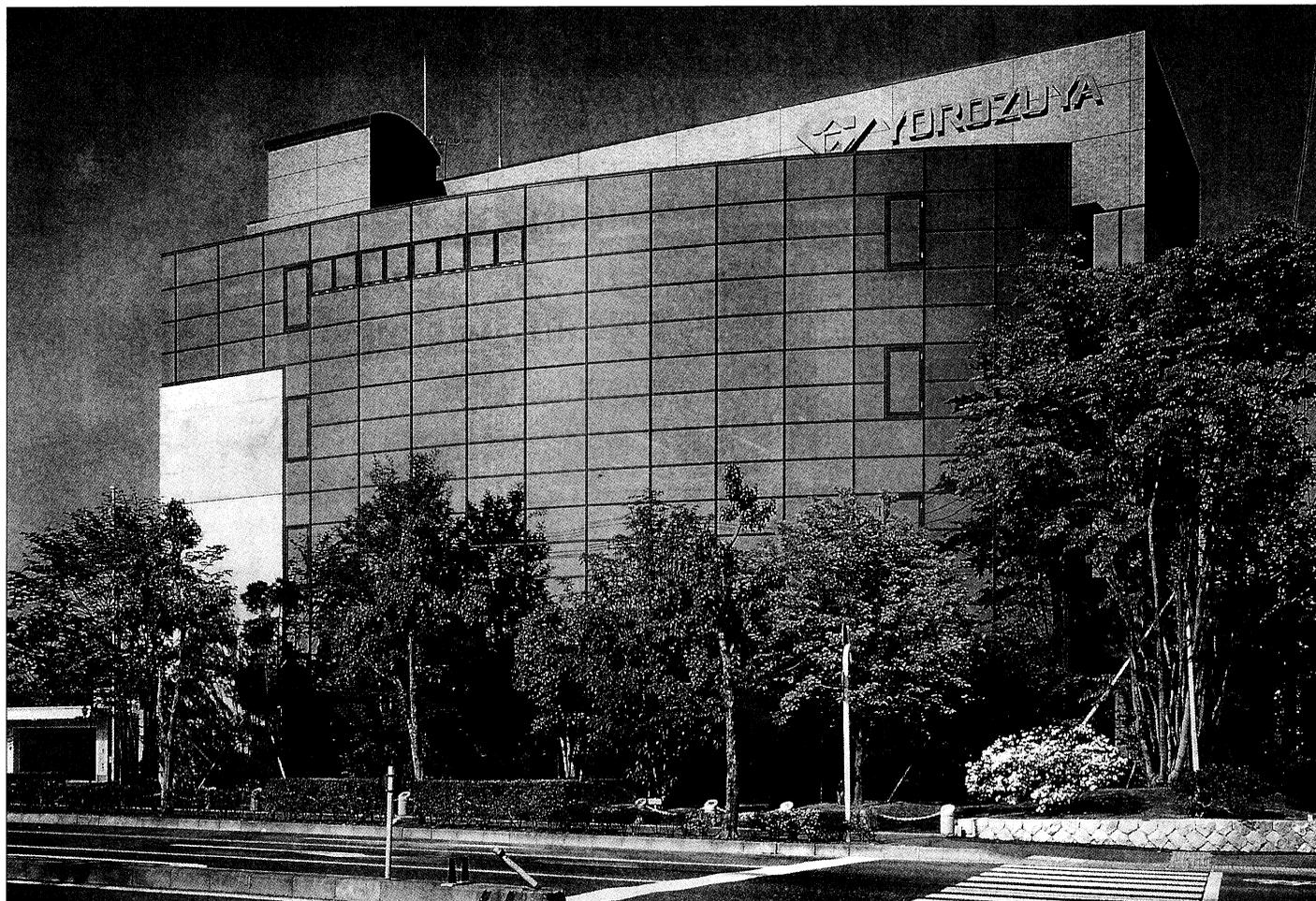
- ネパール、インド、ヨーロッパ・アルプスを始め世界各地でのトレッキング、海外登山

何でもお気軽にご相談ください



T. H. I. CORPORATION

〒135-0042
東京都江東区木場
2-5-7
KHビル7F



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。



総合建設業
萬屋建設株式会社

会長 星野 光

■本社 群馬県沼田市上原町1756-2 TEL 0278-23-4648(代) FAX 0278-24-3371
 ■支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定 (公認)

株式会社 **沼田自動車教習所**

群馬県沼田市横塚町1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店
有限会社 **丸萬石油**

群馬県沼田市上原町1756
TEL 0278-23-0018 ☎ 0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場
建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋2338-1 TEL 0278-24-3111
大楊工場 利根郡利根村大字大楊187 TEL 0278-56-3682

総合建設業
株式会社 **鈴木工業所**

群馬県沼田市上久屋1162-5
TEL 0278-22-2846 FAX 0278-23-6233

マンション
萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7
TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964